

今年の5月20日は？

豊岡市「生きもの共生の日」事業ドキュメント



▲今年も市内各地でヒナが巣立ち(写真:北垣和一さん)

今年、国連が定める「国際生物多様性年」。10月には、愛知県名古屋市で「生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)」が、また、豊岡市では「第4回コウノトリ未来・国際かいぎ」が開催されます。

「生物多様性」満載の1年。市では、生きもの共生の日である5月20日を中心に、一連の事業のスタートとなる“キックオフイベント”を実施しました。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017



「命を大切に」と決まり文句のように言われますが、自分の命だけを見つめていけばいいわけでは決してありません。「自分以外の命にも目を向け、かかわり合いについて考えること」。それが、多様性を理解する第一歩であり、共に生きるための基本です。

違うもの同士が一緒に生きていることの意味を、子どもたちやお父さん・お母さんに考えていただくため、5月20日、小学生を対象に啓発チラシを配布しました。

その1 啓発チラシの配布

「生きもの共生の日」である5月20日には、3年生と5年生が戸島湿地を訪れ、湿地にすむ生きものを調べたり、さらに生きものを増やすためのすみかとなる竹筒や粗朶作りを行いました。

「人が手を加えることで豊かになる自然」を体感。胴付長靴を履いた子どもたちの歓声に、巣塔のコウノトリ親子もビックリ!!

その2 生きもの共生の日 特別授業 子どもが見る湿地

平成21年春、城崎町戸島に「ハチゴロウの戸島湿地」が完成。また今春には、戸島湿地を題材にコウノトリ野生復帰の取り組みをひもとく児童書「おかえりコウノトリ」(佐竹節夫著)が出版されました。教材とフィールドが整った地元の城崎小学校で、湿地をテーマにした環境授業を展開しています。



▲児童書「おかえりコウノトリ」



▲胴付長靴を履き、戸島湿地で生きもの調査

その3 湿地夜も夜も話 大人が見る湿地

市内には、湿地やビオトープの管理に取り組む団体や個人が多数あります。お互いが情報交換し、管理技術やマンパワーを共有する「湿地ネットワーク」が形成されることで、取り組みの持続可能性と生物多様性の面的な広がりが生まれます。



▲「夜も夜も話」で盛り上がる市エコハウス」に、団体や個人が集まり、「よもやま話」ならぬ「夜も夜も話」に花を咲かせました。

熱く、楽しい議論：興味のある方、あなたもネットワークに加わりませんか？

「平成19年5月20日」。放鳥したコウノトリのペアから国内の自然界で43年ぶりにヒナが誕生したこの日を記念し、市では5月20日を「生きもの共生の日」と定め、毎年さまざまな事業を展開しています。

自然と寄り添うようにあった私たちのかつての暮らしぶり。絶滅した「種」を復活させる中で、人と自然の距離感を取り戻そうとする豊岡の取組みが、今、国際的にも注目を集めています。

豊岡市にしかない記念日「生きもの共生の日」を通じて、今後も共生について考え続けます。

5月21日 夜、今春、戸島湿地内に誕生したばかりの「豊岡ス」に、団体

33.9%減!

～一人ひとりの小さな実践が大きな成果に～

ごみの減量成果をお知らせします

市では、豊岡市環境基本計画の中で、平成28年度までのごみ減量の目標数値を掲げていましたが、早くも平成20年度で目標数値を上回る減量を達成しました。

平成21年度はさらに減量となり、豊岡清掃センター開設以来最少のごみ量となりました。
 〈問合せ〉生活環境課環境衛生係 ☎23-5304



ごみ減量の取組み経緯

豊岡清掃センター(旧北但清掃センター)を開設した平成2年度以降、清掃センターへ持込まれるごみ量は年々増え続け、平成12年度にピークを迎えました。

そこで旧豊岡市では、平成12年度を基準年度として、20%のごみ減量に取り組んできました。

新豊岡市もこれを継承し、平成19年4月に豊岡市環境基本計画を策定し、ごみの減量に努めてきました。

平成12年度以降のごみ量の推移

平成12年度の42,917tを基準として、平成28年度までに25%(10,729t)のごみ減量目標を掲げていましたが、平成20年度で早くも31.4%(13,469t)減量を達成し、ごみ総量は29,448tとなりました。

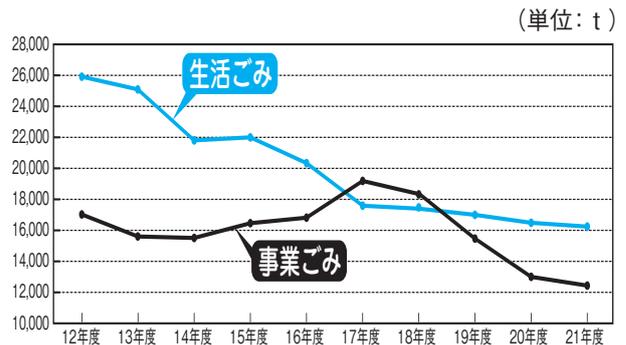
平成21年度は、さらに減り、33.9%(14,543t)の減量、ごみ総量は28,374tとなりました。

なお、1人当たりのごみ量で比較すると、平成12年度は450kgでしたが、平成21年度は318kgになり、29.3%(132kg)減っています。

■豊岡清掃センターに持込まれるごみは「生活ごみ」と「事業ごみ」に分類されます

- ・生活ごみ 容器包装類の分別を開始した平成14年度と旧豊岡市で有料化を実施した直後の平成16・17年度に大きく減少しています(各旧町は、平成12年度より前に有料化実施)
- ・事業ごみ 豊岡市周辺に民間の受入施設が少ないことから、豊岡清掃センターに集中しがちですが、平成19年10月から実施の不適正廃棄物の

持込検査の強化と、解体廃棄物(木くず)の減少により、大きく減っています。



ごみ減量の要因

ごみの減量は、前記のほか、以下の取組みの継続と社会情勢の変化によるものと考えられます。

- ・市内の事業所訪問による事業ごみ減量キャンペーンの効果(H17・18年に実施)
- ・ごみ減量の周知啓発による市民意識の向上
- ・住宅建築件数の減少に伴う木くずの減少
- ・景気悪化に伴う消費の減少と人口の減少

今後の取組み

廃棄物の発生抑制と廃棄物の適正な処分を行い、循環型社会の実現に努めます。

- ・住宅エコポイント制度や景気の動向などでごみ量が元に戻らないための、ごみ減量啓発活動の展開
- ・不適正廃棄物持込検査の徹底強化
- ・資源ごみ分別の徹底と、3R〔リデュース(減量)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)〕の推進

(単位: t)

区分	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
ごみ総量	42,917	40,549	37,091	38,409	37,019	36,886	36,150	32,610	29,448	28,374
12年度比	100%	94.5%	86.4%	89.5%	86.3%	85.9%	84.2%	76.0%	68.6%	66.1%
生活ごみ	25,874	25,143	21,754	21,984	20,218	17,715	17,691	17,080	16,441	16,059
12年度比	100%	97.2%	84.1%	85.0%	78.1%	68.5%	68.4%	66.0%	63.5%	62.1%
事業ごみ	17,042	15,406	15,337	16,425	16,801	19,171	18,459	15,530	13,007	12,315
12年度比	100%	90.4%	90.0%	96.4%	98.6%	112.5%	108.3%	91.1%	76.3%	72.3%

33.9%減

37.9%減

27.7%減

※平成16・17年度分は、平成16年の台風23号に伴う災害廃棄物を除いた量